

とうきょう すぐわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区経堂 1-25-11
園名	世田谷区立わかくさ保育園

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

青空アトリエであそぼう～園庭遊びの広がりと深まりを目指し、子どもたち一人一人の「継続」「没頭」「深まり」を叶える園庭つくり～

＜テーマの設定理由＞

園庭遊びを深めるために遊具の設定や片づけ方を工夫し、倉庫の整理や古タイヤを利用した環境構成を行ってきた。現状でできる環境設定では子どもたちの「今やりたい！」という気持ちに制限が生まれてしまうことがある。遊びの選択肢を増やしながら、さらに継続できる遊びの提案・環境づくりを行いたいと思いテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

5月	テーマ設定。現状の把握と、目指したい子どもたちの姿を職員間で共有
11月～	物品の購入と、新しい物品を織り交ぜた環境設定の考案
1月	購入した物品を既存の遊具・子どもたちの遊びに合うような設定、職員間での意図の共有（すぐわくだより） 実践：園庭での散策あそび・構成遊び・イメージ遊び
2月	園庭遊びのコーナー分け（動の遊び、静のあそび）をしたことで、子どもたちの姿や、あそびへのアプローチの変化を観察・共有
3月	園庭環境・設定を練り直し、観察・考察

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 園庭の遊びをコーナー分けするためのパーテーション（花壇）を設定
- 構成遊び・イメージ遊びが広げ深めることのできる遊具の導入
(コの字マットでおうちづくり・園庭遊具置き場にこまごましたあそびの材料を出し入れできる環境作り・園児全員分の絵具のセット)
- イメージ遊びをじっくりゆったり行うことができるベンチ・テーブルセットの導入
- 園庭遊び用グッズを子どもたちが出し入れできる大きさのおもちゃ棚の導入
- 泥遊びを継続して行うことができる可動式砂場の導入
- 制作遊び・描画活動を室内テラスから屋外に拡張して設定できるための道具の購入
(すのこ・バイオマット)

4. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

- ・マット・ベンチテーブルセットを使ったイメージ遊び（おうちごっこ・お店屋ごっこ）
- ・プランターや花壇にある草花を使ったおままごと
- ・単発で終わらない、各クラスが継続的にあそべる泥・水の感触あそび
- ・室内遊びだけにとどまらず、外気・風・光を感じながら行う描画活動・制作活動

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

自分のイメージした構成を作るための素材を自由に出し入れできる。一人が家をイメージしてマットを構成し遊びだしたこと、他児が影響を受け、隣に家を作ったり、他児が作っている家に「いれて」と仲間に加わる姿があった。おうちごっここの参加人数が増えると更にマットを持ってきて、部屋を増やしていく姿が見られた。また、年長児や年中児が遊んでいる姿を見て、小さいクラスの子どもたちが刺激を受けて模倣して楽しむ姿が見られた。園庭をコーナー分けすることによって、集団遊びや運動遊びを行う際に安全に思い切り楽しめるようになった。

気温が上がってからは水や泥を使った感触遊びを継続して楽しんでいきたい。

5. 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

これまで倉庫に入っていた遊具を、子どもたちが「やりたい」「だしてほしい」という声掛けがあってから出していたミニマットや、バランスストーン・砂場遊具以外の細かな遊具を砂場横の倉庫に置き、出し入れを子どもたち自身が行えるようにした。簡単な設定変更ではあったが、子どもたちの「いまこうしたい！」と感じた瞬間に道具を自分で出し入れできる環境は、主体的な遊びや、遊びの深まり・友だち同士の関わりに大きく関わっていると感じる。実際に子どもたちが行う構成遊びやイメージ遊びが活発になり、「園庭に出たらこれをやりたい！」と遊びに積極的な姿となって表れている。

